

令和元年度 都城市立山田中学校「学校評価及び改善計画」

目標	評価項目	生徒 評価	保護者 評価	職員 評価	現状分析	次年度に向けての改善策	学校運営協議会の意見
学力の 向上	基本的学習習慣	3.1	3.0	3.3	○「基本的学習習慣」はしっかり指導されていると感じているが、約2割の生徒が身につけていないと感じている。忘れ物や課題の提出ができない特定の生徒がいるためと考えられる。 ○「授業の工夫」においては、生徒保護者ともおおむね良好と感じており、分かる授業の工夫がなされている。 ○「それぞれにあった教え方」では、生徒の95.6%ができていると回答しており、授業の形態の工夫や指導により、生徒への分かる手立てがとられていると思われる。 ○約3割の保護者がC、Dの評価をしている。分からない課題をそのままにしているか、答えを写すのみの学習になっている生徒の割合と等しい。保護者が子どもの家庭での学習の様子を見ていない、もしくは学習時間が不十分である現状も考えられる。 ○生徒と保護者の間で、家庭での学習の仕方の認識に違いが見られる。生徒の学習の様子を保護者は知らない場合や、生徒自身の評価が甘い場合もあるのではないかと考えられる。	○学習態度向上週間で、生徒のできている面に目を向け評価していく事で、生徒の自己肯定感を高めながら、身につけていない生徒への個別の支援・指導を継続していく。 ○学力向上の研究の充実を図り、より一層分かりやすい授業になるように努める。 ○継続して生徒の学力などの評価を分析し、生徒の実態を把握して指導に役立てていくように努める。 ○夏休みの三者面談を1年年時から全員対象とするなどし、そこで家庭学習の仕方を三者で共通理解していく機会をもうけるようにする。 ○家庭でどのように学習しているのかを、通信やデイリーライフ等を通して保護者と連絡を取り合う事で、子どもの家庭学習への保護者の意識を高めていく。	○将来の夢や目標について保護者と話をするなど、家庭での取組がキャリア教育の充実にも繋がり、三者面談を1年生時から実施することは有効ではないか。 ○他校と比較し、落ち着いた授業に取り組んでいる。また、先生と生徒との授業でのやり取りも反応が良いと感じる。 ○学習の習慣を身につけるため、基本的な生活のリズムを身につけてほしい。
	分かりやすいように工夫	3.6	3.2	3.2			
	それぞれにあった教え方	3.5	3.1	3.3			
	家庭学習の課題	3.4	2.8	3.3			
	家庭での学習の仕方	3.2	2.8	3.0			
豊かな 心の 育成	積極的にあいさつ	3.6	3.3	3.4	○全ての項目において昨年度の評価平均を上回っている。 ○部活動などの限定的な場での挨拶が多い。朝の校門や廊下、朝の会、帰りの会、授業での挨拶など、時と場に応じた挨拶への指導が不十分である。 ○生徒の自己評価と保護者の挨拶の差が大きい。現状として、十分にできているとはいえない。 ○自己評価は高いが、気付きの清掃や終わりの反省会などに取り組めていない。 ○ルールやマナーの値は高いが、登下校時における自転車マナーに関する苦情が発生している。 ○道德での指導やピアサポート活動で生徒間の思いやりの心が育ってきている。	○あいさつ運動の活性化や学担・教科担が連携して学校全体で日々の指導を確実に行う。 ○ピアサポート活動を通じて言葉遣いや呼称の指導など、適切な指導を継続して行う。 ○5分前の予鈴から無言での移動を取り入れ、本鈴前から清掃に取り組み、清心清掃に没頭できる雰囲気作りりの徹底に取り組む。 ○集会などでことある毎に指導を行っている。今後も継続して指導する。 ○道德活動の充実・ピアサポート活動の拡大を図っていく。 ○メディアコントロールを校内研究に位置付け、実践することで、生活習慣や学習習慣の改善につなげる。	○登下校中に一部では自転車通学に対する苦情もあるようだが、気持ちの良いあいさつをしてくれている。 ○ピアサポート活動の効果もあり、悪い言動が無く、また男女でも仲がよく優しい心が育っていると感じる。 ○メディアコントロールについての校内研究を進め、生活リズムの崩れが招く学力低下や不登校を未然に防げるよう期待する。
	正しい言葉遣い	3.5	3.2	3.4			
	清心清掃	3.6	3.1	3.6			
	ルールやモラル	3.6	3.3	3.4			
	相手の気持ちや立場	3.4	3.3	3.5			
体力の 向上	正しい姿勢（立腰）	3.0	2.9	3.1	○どの項目も昨年より評価が良くなっている。 ○授業中の立腰の持続が難しい。 ○睡眠不足での来室は少ない。 ○体力テストの結果は、握力・ハンドボール投げ・反復横とびが全国平均を下回っている。 ○「部活動」は、生徒の87%と保護者の90%が概ね良好と回答している。	○立腰指導BOXを指導週間時に配布し、活用を図っていく。 ○中学生に必要な睡眠時間や睡眠の効果を保健だよりで生徒及び保護者に啓発していく。 ○「体力向上」については、体育の授業での導入段階で基礎トレーニングを行い、筋力アップ・敏捷性アップにつなげる。 ○「部活動」については、始まりの時間を意識させ、体力・競技力の向上を図っていく。	○部活動は、体力の向上だけでなく社会性や協調性を育むためにも有意義であり、加入率の向上策や再編について検討を始めるべきではないか。 ○平均以下の体力との結果を受け、特に筋力や敏捷性の向上に結びつく対策を講じるべきである。 ○体力向上に向けて、登下校時の送迎の自肅を呼びかけてみてはどうか。
	規則正しい生活	3.3	3.0	3.1			
	体力の向上	3.0	3.0	3.1			
	部活動に積極的	3.5	3.5	3.1			
る地 域に 関 与 す る 貢 献 成 就	地域（山田町）に関心	2.9	3.0	3.0	○生徒、保護者ともに約70%が「地域に関心をもち、深く知る活動に取り組んでいる」と回答している。 ○ボランティア活動等に対しても、約70%の生徒と保護者が「取り組んでいる」、約30%が「取り組めていない」と回答している。 ○ほとんどの家庭で通信等で学校の様子を知らせていると回答しているが、約10%の家庭が伝わっていないと回答している。 ○秋田県潟上市との学校間交流事業をとおして、情報交換ができるとともに、郷土愛を育むことができた。	○地域学習は総合的な学習の時間において、3年間で系統的に学んでいけるように取り組んでいるが、改善点はある。 ○3年生は、総合的な学習の時間にボランティア活動に取り組んでおり、校外でのボランティア活動にも参加しやすいので、今後、増えていこう募集方法を工夫し、啓発を図る。また、全校生徒がボランティア活動に参加できるように工夫・改善を図っていく。 ○通信に返信欄を設け、サインだけでもしてもらい、確実に情報が家庭へ届くようにしていく。 ○秋田県潟上市との学校間交流事業を継続していく。	○ボランティアに関しては、数年前に比べて非常に積極的になったと感じるが、ボランティアマスター制度を再導入し、更なる意識付けを促してほしい。 ○かかし祭では、準備から片付けに至るまで生き生きとボランティア活動をしている頼もしい生徒の姿が見られた。 ○地域に関心を示す保護者は限られているように感じる。情報発信を工夫し、保護者自身が地域貢献する姿を子どもに示すべきである。
	地域と関わる活動 ボランティア活動等	3.0	2.9	3.0			
	家庭への情報提供	3.5	3.3	3.3			
P T A 活 動	広報活動		3.6	3.6	○ホームページやメール配信は保護者にも好評を得ており、学校の様子や案内文書がより確実に伝わるようになった。 ○平日開催の参観日の出席率が低いが、学校保健委員会や駅伝ロードレース大会への参加率が昨年度より高まり、改善が見られた。	○ホームページ、特に今年度工夫したPTAコーナーをさらに工夫し、保護者のPTA活動に対する関心を高める工夫をしていきたい。 ○参観日の日程、学級懇談の内容を工夫し、多くの保護者が出席する手立てをとっていく必要がある。	○昨年度から追加された評価項目であるが、新たな視点で分析することでPTAへの意識付けに繋がっている。また、ホームページによる情報発信が功を奏し、PTA活動や参観日の参加率が上昇した。 ○地道な保護者啓発の取組として、PTA役員を中心に各地区に出向いて座談会を企画してはどうか。
	開かれた学校づくり		3.6	3.6			
	家庭と学校の連携		3.6	3.6			

